

デザイン題材における「加減乗除の発想法」の活用

鎌田 純平

本稿は中学校美術科において、発想法を授業に取り入れる試みについて論述したものである。その発想法とは「+（組み合わせる）」「-（取る）」「×（繰り返す）」「÷（分解する）」の4つの手法から成る「加減乗除の発想法」というものであり、それが生徒に創造的な表現をもたらす可能性について確認することを目的としている。

筆者はこれまで発想する行為を苦手とする生徒に多く出会ってきた。だがそのような生徒達に対しても、発想する際のポイント等を指導すれば、本来もっている発想力を一層引き出すことができるのではないかと考えた。そこで、アイデアを豊かにする一つの方法論として上記の発想法を示し、その方法を活用したデザイン制作を通して、その効果について実感できるよう促そうとした。具体的には、生活や社会の中にあるデザインのうち特に「形」に注目し、それを加減乗除の発想法によってアレンジしたものを活用した平面作品を制作するという実践を行った。そして、授業で使用した生徒のワークシートを分析することで、この発想法がどのように活用されていたかを検証した。またアンケート調査を通して、4つの手法のもつそれぞれの特性について考察を深めた。

「加減乗除の発想法」における4つの方法の特徴と効果については、「÷（分解する）」とその他3つの手法とで分類することができた。「÷」はデザインを「構成する形」及び「最小単位の形」へと分解する際に活用できる。「+（組み合わせる）」「-（取る）」「×（繰り返す）」は分解された形を使って、新たな形を生み出す際と画面へ配置する際に活用できる。実践の結果生徒たちは、その4種類の方法によって形成されている加減乗除の発想法の中から、適宜選択・活用して基とした持参資料から発想を膨らませ、オリジナルのデザインを生み出していた。生徒たちは独創的な作品をつくり上げたわけであるが、そのためにこの発想法は有効に働いたと言える。特にデザインについて不慣れであり、どのように制作していけばよいかわからない中学1年生に対しては、その効果の大きいことが示された。またそこでは1. 独自の形を創出することで、より創造的な表現につながりやすいこと。2. 4つの手法のうち、より多くの方法を取り入れた方が創造性の高い作品になりやすいこと。3. 形を増やす方向へ作用する「+（組み合わせる）」と「×（繰り返す）」に対して、特に役立つと感じる生徒が多いこと、の3点が示唆された。一方実践していく中で、1. 評価の際に表現の途中過程を一層重視するよう、注意が必要である。2. この発想法をより生かしていくためには、多様な種類のデザインを収集することが重要である。3. 役立ったと感じた生徒が特に少ない「-（取る）」の効果について、指導の工夫が必要である、という課題が明らかとなった。